

ジャガイモ収穫機普及に向けた普及・実証事業 東洋農機株式会社(北海道)

インド国の開発ニーズ

- ジャガイモ収穫の機械化促進による作付面積・生産量拡大(労働集約的農法の限界:労働者確保困難、人件費高騰)
- 適切な収穫後処理・輸送体系の確立によるジャガイモの付加価値向上、効率的な生産販売

普及・実証事業の内容

- インド仕様のジャガイモ収穫機の導入検証(モデルファームでの試用・調整、収穫効率等の評価など)
- パンジャブ州園芸局(C/P)普及員及び周辺農家を対象とした収穫機使用および機械化に適した収穫体系確立に向けた指導
- 現地生産可能性調査および普及計画の策定

提案企業の技術・製品

ジャガイモ収穫機

<自走式> - 小規模圃場に対応



<牽引式>



- 畦の形状に合わせて掘取り、塊茎にダメージを与えない。
- コンベヤシステムによる損傷防止および作業効率改善。

ロータリー・カルチベーター



- ハードな土質の改善

事業概要

相手国実施機関: パンジャブ州園芸局
事業期間: 2015年11月~2018年5月
事業サイト: パンジャブ州ジャンダール

インド国側に見込まれる成果

- インドの市場ニーズに適合したインド仕様のジャガイモ収穫機が検証される
- 機械化に適した栽培体系、収穫体系が提案される
- C/Pおよび農家に収穫にかかる技術が移転され、機械化普及のための基盤が整う

日本企業側の成果

現状

- ジャガイモ収穫機の国内シェア70%
- 農業試験場、大学等との協力

今後

- インド仕様収穫機の一部現地生産による販売、他州へのビジネス展開
- 「フードバレーとかち」が推進する十勝を拠点とした海外展開のモデルケース